

# 文化・歴史が息づく岐阜市

岐阜市長(岐阜県)

柴橋正直



### はじめに

斎藤道三公による稲葉山城建設と先進的なまちづくり、まちを受け継いだ織田信長公による城の改修や山麓庭園などのおもてなし、最後の城主・織田秀信公と関ヶ原の戦い前哨戦。日本の中央に位置する岐阜は、戦国時代を通じて歴史の重要な舞台となった地である。そして、古くより陸運と水運が交錯する交通の要衝でもあった。

道三公が金華山(稲葉山)を本格的な山城とし、山麓に水運を基軸とした城下町を造り上げたのは、このような地の利があったからなのだろう。また戦国時代に醸成された鵜飼観覧や遊宴文化は、江戸時代以降も受け継がれ、独特の絆

や文化が育まれていった。岐阜の歴史文化は、多様な地勢と戦国城下町の出来事が相互に影響を与えながら形成されたといえるのではないだろうか。

### 東海のシルクロード —陸運と水運、産業—

街道に目を向けると、岐阜市は東国と畿内をつなぐ場所に位置しており、奈良時代には東山道が、江戸時代には中山道が整備された。

中山道沿いには、河渡宿や加納城下町と一体となった加納宿が設置される。また、尾張藩領の岐阜町(かつての岐阜城下町)と加納城下町は、鵜飼で捕った鮎を加工した鮎鮎を献上するルートである御鮎街道で結ばれており、わずか4kmと近接した場所に二つの拠点

都市が併存した。この二つの町が核となって現在の本市が形成されていく。

中山道は、時折、大名行列や姫宮の輿入れなどにぎわった。最近の研究では、西国の大名が参勤交代で江戸に向かう途中、または



鮎鮎を献上するルートだった御鮎街道

東国の大名が大坂城を守衛する役である「大坂加番」のため大坂に向かう途中に、通常使われる東海道ではなく、中山道を使って岐阜に立ち寄ることがあったという。わざわざ岐阜に立ち寄った理由は長良川の鵜飼を見物するためであった。当時、長良川の鵜飼が全国に知られ、観光名所となっていたことがうかがえるエピソードである。

なお、古代に平城京に運ばれた特産品として、美濃綿などの絹製品、和紙、須恵器、鮎の加工品などがある。中でも絹や綿は時代を通じて有名で、江戸時代には岐阜縮緬や美濃縮緬として京都や江戸で販売された。他にも江戸時代の岐阜では、上流からもたらされた和紙や竹を用いて、岐阜提灯や岐阜



金華山に建つ岐阜城

団扇、岐阜和傘が盛んに作られ、流通網を生かして江戸や京都、大阪に出荷された。

このように、岐阜の経済と文化は街道と川が育んだのである。

### 文化・歴史の継承とまちづくりの拠点

先に記述したとおり、御鯨街道や、中山道とつながりの深い長良川の鵜飼は現在でも本市の観光の主要な部分を担っている。

今年、本市の稲葉山城（現岐阜城）や立政寺などが舞台となったNHK大河ドラマ「麒麟がくる」が放映され、「麒麟がくる」岐阜大河ドラマ館」が期間限定で開館



歴史・文化を伝える中山道加納宿まちづくり交流センター

するなど、本市の魅力在全国に発信するまたとない機会である。街道や鵜飼とともに、さまざまな歴史のある本市の魅力を引き続き発信していきたい。

また、街道の歴史・文化を継承し、地域のまちづくり活動の場とするため、本年10月14日、旧加納町役場跡地に「中山道加納宿まちづくり交流センター」を開館した。

昭和15年の本市との合併を機に加納支所となった旧加納町役場は、岐阜空襲でも消失を免れ、国の登録有形文化財に登録された

## 中山道・御鯨街道

### 一口メモ

が、建物の強度不足により閉鎖、解体された。このような中、跡地整備について議論が重ねられ、「加納宿を中心とした中山道沿道の歴史・文化の継承」、また、「地域のまちづくり活動の場」を提供することを目的として当施設が開館するに至った。

当施設では、地元団体による「加納の歴史・文化継承プロジェクト委員会」から、「大切なまちの

歴史と文化を守り受け継ぎたい」という思いの下、寄贈された和傘などのほか、中学生や高校生が作成した加納城のジオラマなどを展示している。

今後も若い世代を含んだ地域の住民が、この施設をまちづくりの拠点として活用することで、地域に愛着や誇りを持ち、シビックプライドの醸成に寄与する施設になることを期待している。

### 中山道・加納宿と河渡宿を有する要地・岐阜

五街道の一つ、中山道は江戸日

本橋を発して、京の三条大橋まで六十九宿をつなぐ約534kmの道



のりである。

旧岐阜市の中心部にある城下

町・加納には寛永11(1634)年、

中山道五十三番目の宿場加納宿が

整備され、東西二町三七間(約

2.4km)の町並みを誇り、中山道

屈指の宿場町として発展した。

岐阜城下と加納城下を結んだ尾

張街道(岐阜街道)は、別名「御鯨

街道」「鮎鯨街道」とも呼ばれ、

当時の街道の道筋がほぼ残されて

いる。

企画協力…全国街道交流会議「街道交流首長会」